【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成18年2月16日(2006.2.16)

【公開番号】特開2004-127279(P2004-127279A)
【公開日】平成16年4月22日(2004.4.22)
【年通号数】公開・登録公報2004-016
【出願番号】特願2003-316382(P2003-316382)
【国際特許分類】
Ｇ０６Ｋ　19/077　(2006.01)
Ｂ４２Ｄ　15/10　(2006.01)
Ｈ０１Ｌ　25/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０６Ｋ　19/00　Ｋ
Ｂ４２Ｄ　15/10　５２１
Ｈ０１Ｌ　25/00　Ｂ

【手続補正書】
【提出日】平成17年12月26日(2005.12.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
電圧をかけることにより情報表示を書き替えすることのできる表示部を有する表示ユニットと、アンテナ回路を含む回路部を有するＲＦＩＤユニットを備え、表示部とアンテナ回路が重畳せずに配置されている非接触ＩＣチップ実装体。
【請求項２】
表示部の周囲を囲んで前記アンテナ回路を配置する請求項１記載の非接触ＩＣチップ実装体。
【請求項３】
表示ユニットが電子ペーパーである請求項１又は２記載の非接触ＩＣチップ実装体。
【請求項４】
表示ユニットとＲＦＩＤユニットが、一体化した支持部材により保持されている請求項１～３のいずれか一項に記載の非接触ＩＣチップ実装体。
【請求項５】
表示ユニットとＲＦＩＤユニットが着脱可能に組み合わされる請求項１～４のいずれか一項に記載の非接触ＩＣチップ実装体。
【請求項６】
表示ユニットが電極に電圧を印加した状態において情報投射手段からの情報投射によって情報を書き替える方式の電子ペーパーである請求項１～５のいずれか一項に記載の非接触ＩＣチップ実装体。
【請求項７】
表示ユニットがトリガ信号受信手段を有し、該トリガ信号受信手段がトリガ信号を受信して表示部の書き替えの動作を開始させる請求項６記載の非接触ＩＣチップ実装体。
【請求項８】
前記情報投射手段からの情報光の少なくとも一部をトリガ信号として使用する請求項７記載の非接触ＩＣチップ実装体。

【請求項９】
表示ユニットが駆動用の電源を有する請求項１から８のいずれか一項に記載の非接触ＩＣチップ実装体。
【請求項１０】
表示部の表示が実質的に色の有無による表示を少なくとも含むものである請求項１から９のいずれか一項に記載の非接触ＩＣチップ実装体。
【請求項１１】
表示部にバーコード又は２次元バーコードを表示する請求項１～１０のいずれか一項に記載の非接触ＩＣチップ実装体。
【請求項１２】
表示ユニットがコレステリック液晶を用いた電子ペーパーである請求項１～１１のいずれか一項に記載の非接触ＩＣチップ実装体。
【請求項１３】
ＲＦＩＤ部に記憶した情報の全て又は一部を、表示部に視認可能に表示する請求項１～１２のいずれか一項に記載の非接触ＩＣチップ実装体。
【請求項１４】
請求項５～１３のいずれか一項に記載の非接触ＩＣチップ実装体からＲＦＩＤユニットを取り外した、ＲＦＩＤユニットを着脱可能な表示ユニット。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
電圧をかけることにより情報表示を書き替えすることのできる表示部を有する表示ユニットと、アンテナ回路を含む回路部を有するＲＦＩＤユニットを備え、表示部とアンテナ回路が重畳せずに配置されている非接触ＩＣチップ実装体では、表示部とＲＦＩＤユニットのアンテナ回路を重ならないように配置することにより、其々の通信電波や表示ユニット等から発生するノイズ電波の影響を軽減することができる。これによって用途に応じて好適な電子ペーパーとＲＦＩＤを自由に組み合わせることができ、電子ペーパーとＲＦＩＤを同時に動作させ、動作に要する時間を短くすることができる。
また、表示部の周囲を囲んでアンテナ回路を配置することにより、アンテナ回路の開口面積をより大きくできるので、比較的より少ない投影面積にてより高感度のＲＦＩＤユニットを組み合わせることが可能となる。
また、ＲＦＩＤユニット中に実装されたＩＣチップと表示部に充分な距離が取れるため、稼働中のＩＣチップの発熱による表示部の画像情報の劣化を防ぐことも可能である。